



プロフェッショナル を紹介します!!

Vol.3 福田 明子先生

消化器外科、特に大腸外科を専門に取り組んできた外科医です。ロボット手術のスペシャリストでもあります。

Q 医師を目指したきっかけは何ですか？

A 特に身近に医療従事者がいたわけではなく、漠然となにか人の役に立つ仕事がしたいと思っていました。ももとは心身症に興味があり医師を目指しましたが、学生実習で流れるような手術やチームの一体感を見て大幅に方針転換し、外科に進みました。

Q 先生が専門とされているロボット手術について少し教えてください。



A 当院で採用されている da Vinci Xi は①ロボットの頭脳であるビジョンカート、②患者さんに接続するペイシャントカート、③ロボットを操作するサージョンコンソールの3つの機械で構成されています。ペイシャントカートには4本のアームがあり、カメラと3本の鉗子を取り付け、すべて術者がサージョンコンソールから操作します。ロボットが自動で手術を行うわけではありません。
従来の腹腔鏡手術と異なり3Dカメラで術野を立体的に見ることができるため、解剖を細かく把握することが可能です。また、ロボット手術で使用する鉗子は多関節機能により先端が自由に曲がり、さらに手ブレ防止機能がついているため細かい作業を安定して行うことができます。

Q ロボットなどの新技術は今後の医療をどのように変えていくのでしょうか。

A 3次元視野・手ブレ防止機能により正確性が高く、また侵襲性がより低いロボット支援下手術は今後より多くの術式において標準的手法になっていくと思われます。
ロボット支援下手術は離れた場所から手術を行うことができ、遠隔手術の実証実験も行われています。今はまだ通信速度やセキュリティなどの問題がありますが、当院から離島の病院にいる患者さんの手術をおこなったり、離島の若手医師に手術指導を行ったりすることも可能になるかもしれません。医療の地域格差の改善が期待されます。

Q 仕事で大切にされていることは何ですか

A 手術は外科医だけでは行えません。麻酔科の先生方、手術室や病棟の看護師の方々はもちろんのこと、ロボット手術に関してはロボットの管理を行ってくださる臨床工学技士の方々や煩雑な手続きや施設改修などに対応してくださる事務の方々などの役割も大きくなっています。多数の職種の方の支援を受けてロボットが稼働しています。感謝の気持ちとチームワークを大事にしていきたいと思っています。

Q 今後の目標を教えてください。

A 手術手技の向上と、当院でのロボット支援下手術を安全に発展させていくことが目標です。また、大腸領域のロボット支援手術プロクターを取得しましたので次世代の術者教育にも取り組みたいと思います。